

1. 本調査の概要

1. 1 問題と目的

現在、大学のグローバル化のかけ声の下で、「大学の秋入学」導入の必要性が議論されている。導入に向けて具体的な検討に入る大学がある一方で、秋入学そのものの是非について、様々な立場から多様な意見が出されている状況である。現在までのところ、秋入学導入に向けた社会的合意が形成されているとは言い難い。

ところで、秋入学導入に関するこれまでの議論は、制度変更に伴うメリット・デメリットに焦点を当てたものがほとんどであり、学生生活への影響については十分に論じられてこなかった。このいわば「当事者不在」の議論は、意識調査のあり方においても認められる。これまで、秋入学に関する意識調査がいくつか行われているが、それらは高校、大学、企業関係者を対象にしたものが中心であり、大学生側の意識に焦点を当てた調査はほとんど見られないのである。しかしながら、秋入学導入はこれまでの学生生活のあり方を根本から変えるものであり、「ギャップターム」における学力の維持の難しさ、ギャップタームによる興味の拡散・学習意欲の低下、所属集団が一時的になくなることに起因する不安や懸念、集団作りの遅れに伴う人間関係づくりの難しさなど、学生生活への適応上、新たな問題を生み出す可能性がある。このような「懸念」については、先行する調査研究においても部分的に示唆されている。たとえば、高校教員を対象にしたある調査（『9月入学調査報告書』東京農工大学）によれば、秋入学制度によって「入学前の半年間のブランクのために、大学の学業にスムーズに入れない学生が増える」と予想する回答が44%で最も多かった。さらに、大学の学業にスムーズに入れる学生と入れない学生に二極化するだろうという意見がめだった。初期適応につまずくことで健全な大学生活を送れないケースが増えているという現状を考慮するならば、この懸念が現実のものとなる可能性は決して低くないものと予想される。したがって、秋入学導入を視野に入れるのであるならば、制度面のみならず学生の適応面でのサポート体制について検討に入ることが必要であると考えられる。

本調査は、「大学の秋入学」に関する東北大生の意識・考え方を探ることにより、秋入学制度の導入によって生じると予想される適応上の問題に対処するための基礎的知見を得ることを目的としている。これらの知見は、秋入学導入がもたらす適応上の問題をサポートする心理支援体制および学習支援体制を構築するための基礎資料となることが期待される。

1. 2 調査対象と方法

調査対象：平成 24 年度に東北大学に入学した 1 年生全員（2559 名）

調査時期：平成 25 年 1 月

調査方法：郵送による質問紙調査

調査の目的からすれば、①大学入学時の状況について想起できること②大学生活についてもある程度の知識や経験を有することが必須である。これらの条件を満たす調査対象として、入学後 10 ヶ月を経過した大学 1 年生が最適であると判断した。調査対象者には質問紙を郵送し、回答の上、返信用封筒にて質問紙を返送するよう要請した。直接回答を求める方法に比べ、郵送では回収率が下がることが予想されるが、2500 名を超える学生を対象とする調査であることを鑑み、郵送による方法を採用した。

1. 3 質問紙の構成と内容

1. 3. 1 「秋入学」の概念規定

「秋入学」あるいは「秋季入学」という用語は、マスコミで広く使われることで一般に知られるようになったが、その意味は必ずしも明確ではなく、一義的に理解されているとは言えない。単に入学時期の変更だけを示す場合もあれば、高校卒業・大学入試から大学卒業・就職までを含む制度全体の変更を視野に入れている場合もある。秋入学に関する意識調査を行う立場からすれば、当然後者のような制度全体を視野に入れて調査を行う必要がある。そこで、調査にあたっては、「秋入学」を以下のように概念規定し、それについての意識や考え方を尋ねることとした。

- ①「秋入学」とは、入学や卒業の時期を半年ずらし、秋（9 月～10 月）に入学し、夏（8 月～9 月）に卒業をすることを意味する。
- ②現在、議論が進められている「秋入学」は、大学においてのみ検討されており、高等学校では検討されていない。そこで、大学の「秋入学」が実施された場合、高校を卒業した後、大学入学までの半年間、高校にも大学にも所属しない期間（ギャップターム）が生じることになる。（なお、本調査ではギャップタームを「移行期間」と呼称する。）
- ③大学の入試制度については、現行通り、センター試験は 1 月、国公立大学の 2 次試験は 2 月～3 月に実施されるものとする。
- ④就職の時期(民間企業や公務員等の採用試験等の日程も含む)については、現状の通りとする。

1. 3. 2 質問紙の内容

質問紙はフェイスシート、設問Ⅰ（Q1～Q3）、設問Ⅱ（Q4～Q10）で構成されている。フェイスシートには、調査目的の説明、調査で用いる用語の説明（「秋入学」の意味の解説）、学部名と性別を尋ねる質問が記載されていた。

設問Ⅰは、「移行期間」に関する質問であり、設問Ⅱは「秋入学」に関する質問である。学生生活適応上の問題として、まず問題となるのが「移行期間」の扱いであると予想されるので、先ずそれについて尋ね、ついでそのような移行期間が生じるもととなる「秋入学」制度について尋ねるという構成を採った。

設問Ⅰの各質問内容は以下の通り。

- ・Q1 もし、あなたが秋入学をすることになった場合、あなた自身は移行期間をどのようにして過ごしたいですか。
- ・Q2 秋入学が導入された場合、移行期間の間に、大学が新たな活動プログラムを提供することが予想されます。このことについて、あなたならどのような活動プログラムに参加したいと思いますか。
- ・Q3 移行期間によって生じると思われる以下のようなことについて、あなた自身はどの程度不安に感じますか。

まずQ1では移行期間の過ごし方について尋ね、Q2では大学が提供する活動プログラムについての希望を具体的に尋ねた。さらに、Q3では移行期間が生じることに伴う不安面について尋ねた。

設問Ⅱの各質問内容は以下の通り。

- ・Q4 あなたは大学の秋入学の問題に興味や関心がありますか。
- ・Q5 秋入学導入のねらいの1つに、海外への留学を活発にしようというのがあります。あなたが大学に入学した頃に秋入学の制度が一般的になっていたとしたら、留学しようと思いませんか。
- ・Q6 あなたは自分の所属する大学で秋入学を実施することについてどのように思いますか。
- ・Q7 あなたは、自分の大学が秋入学を導入することになったとして、その導入にあたり、以下のようなことはどの程度必要だと思いませんか。
- ・Q8 現在、日本のいくつかの大学で秋入学に関して検討が進められていますが、その中では本調査で仮定したような「秋入学、秋卒業」とせず、入学時期を現行通りとし、始業を秋にするという案（実質3.5年の修学期間）が提案されています。こうした秋始業の案について、あなたご自身はどのように思いますか。
- ・Q9 大学の秋入学をめぐる検討については、本調査で仮定したような「秋入学、夏卒業」や上記Q8で述べたような「春入学、秋始業、春卒業」とは異なるやり方があると考えられます。そこで、大学の入学や卒業の時期に関して、どの方式に最も魅力を感じますか。
- ・Q10 最後に、秋入学の導入や移行期間に関して、あなたが「入学予定者」の立場に置かれたとして、心配な点や希望することなど、なにか思うところがございましたら、下記の記入欄にご自由にお書きください。

Q4では秋入学に関する興味・関心について、Q5では留学に対する関心について尋ねた。Q6は秋入学導入についての賛否を尋ね、Q7では導入に当たって必要となる条件整備について尋ねた。Q8では、いくつかの大学で導入が検討されている「秋始業」についての是非を尋ね、Q9では現行方式も含め最も望ましいと考えられる方式について尋ねた。最後のQ10では秋入学導入についての懸念・不安や希望することについて自由記述を求めた。